

II. 事業の実施状況

【公益目的事業】

[公益1] 私立大学における情報通信技術活用による教育改善の調査及び研究、
公表・促進

1-1 情報通信技術による教育改善の研究

<事業計画>

教育の質的転換に向けた教育改善を促進するため、本協会が24年度にとりまとめたICTを活用した分野別の教育改善モデルの提言を踏まえて、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修(アクティブ・ラーニング)の実現に向けた効果的な取り組み方策及び教員の職能開発等について年次的に研究する。

<事業の実施結果>

学生が主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的学修(アクティブ・ラーニング)の実現に向けた効果的な取り組み方策を研究するために、17の「学系別FD/ICT活用研究委員会」及び13の「サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会」を継続設置し、本協会が24年度にとりまとめた学士力の考察、到達目標、到達度及び教育改善モデルについてサイバーFD研究員にアンケート調査を行い、その意見を踏まえて見直し、確認又は修正を行った。その上で、平成26年度からの研究テーマについて検討を行った。なお、情報通信系分野については[公益2]の事業として「情報教育研究委員会情報専門教育分科会」にて研究を開拓したのでここでは割愛する。

学系別FD/ICT活用研究委員会(17分野)

(英語、社会福祉、心理、法律、経済、経営、会計、物理、化学、機械工学、建築、
経営工学、栄養、被服、医学、歯学、薬学)

サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会(13分野)

(政治、社会、コミュニケーション関係、国際関係、電気通信、土木工学、数学、
生物、看護、美術・デザイン、統計、教育、体育)

17の学系別FD/ICT活用研究委員会は、延べ33回(平均2回)、13のサイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会は延べ24回(平均2回)開催し、30分野合わせて168名の委員が1委員会当たり平均4名又は5名が出席して研究を進めた。各委員会の開催日、委員の出席状況等については、31頁に詳細を掲載した。

平成25年度は、最初に学士力の考察、到達目標、到達度及び教育改善モデル、改善モデルに必要な教育力、FD活動と課題について見直しを行うため、各分野のサイバーFD研究員に平成25年7月~10月の2回に亘り、建設的な意見公募を実施し、30分野で312件(回答率平均2.6%)の意見が寄せられた。内容としては、ほとんどが学士力に関する意見であった。そこで各委員会では、学士力に関する見直しを中心に検討を進め、必要に応じて「学士力の考察」、「到達目標」、「到達度」の表現を修正するとともに、新たな到達目標の追加設定などを行った。

また、その上で平成26年度におけるアクティブ・ラーニングを効果的に進めるための

活動計画（研究テーマ及び研究方法）について検討を行ったところ、26分野で有志教員による対話集会を開催して意見交流する中で、ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みを探求することにした。4分野は教養としての専門分野の授業改善モデルの研究、反転授業の実験、世界に通用する教育内容・方法の研究などを予定している。

以下にアンケート調査の内容及び委員会ごとの検討結果を報告する。

なお、学士力の修正内容は、巻末の事業報告の附属明細書【2-1】を参照されたい。

【アンケート調査の内容】

○○○学教育における教育改善モデルについてご意見伺い

平素は本協会の事業に格別のご協力をたまわり厚くお礼申しあげます。

本協会は、学士課程教育の質的転換を目指して、5年先の教育改善モデルの研究を進めており、平成24年11月に6年間にわたる研究成果として「大学教育への提言－未知の時代を切り拓く教育とICT活用」の中で31の学問分野の学修成果の到達目標・到達度を先生方のご意見を参考に考察し、その一部を実現する教育改善モデルを構想しました。また、改善モデルに求められます教員の教育力、FD活動等についてもとりまとめることができました。そこで本協会としては、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、先生方のご意見を踏まえて見直しを行い、課題を整理して26年度以降改善モデルの一層の充実を図る事業を展開したいと考えております。

つきましては、学務ご多端の折り柄、大変お手数を煩わせ恐縮に存じますが、下記によりご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。なお、教育改善モデルの内容は、本協会のWebサイトに報告書を掲載しておりますのでご覧願います。

○○学教育における教育改善モデル http://www.juce.jp/LINK/pdf/teigen_○○.pdf

記

【○○○学教育における教育改善モデルについてのご意見】

○○学教育における教育改善モデルをご覧いただき、以下の1から3について、以下の回答サイトのご意見欄1からご意見欄3にご意見をお寄せ下さい。

回答サイト：<http://www.juce.jp/feedback/cgi-bin/feedback.cgi?id=○○○○○>

1. ○○学教育の学士力の考察の到達目標、到達度について配慮すべき点がありましたらご意見を記入欄1に記入下さい。

2. 教育改善モデルについて、配慮すべき点がありましたら教育改善モデル1、2を明示してご意見を記入欄2に記入下さい。

(1) 授業のねらい、授業の仕組み

(2) 授業にICTを活用したシナリオ、授業にICTを活用した学修内容・方法

(3) 改善モデルの授業の点検・評価・改善、授業運営上の問題及び課題

3. 改善モデルに必要な教育力、FD活動と課題について、配慮すべき点がありましたらご意見を記入欄3に記入下さい。

(1) 教員に期待される専門性

(2) 教育改善に求められる教育力

(3) 教育力を高めるためのFD活動と大学としての課題

平成25年度学系別委員会開催日程及び出席状況

委員会名	委員会開催回数		委員数		出席数	平均出席者
学系別FD/ICT活用研究委員会	委員会開催月	開催数	委員数	(延人数)	(延人数)	(平均)
1 英語教育FD/ICT活用研究委員会	11月、12月	2回	8名	16名	11名	5.5名
2 社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、12月	2回	5名	10名	7名	3.5名
3 心理学教育FD/ICT活用研究委員会	9月、2月	2回	6名	12名	10名	5.0名
4 法律学教育FD/ICT活用研究委員会	11月、12月	2回	6名	12名	10名	5.0名
5 経済学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、3月	2回	8名	16名	9名	4.5名
6 経営学教育FD/ICT活用研究委員会	11月、1月	2回	7名	14名	11名	5.5名
7 会計学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、2月	2回	7名	14名	11名	5.5名
8 物理学教育FD/ICT活用研究委員会	11月、1月	2回	7名	14名	14名	7.0名
9 化学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、1月	2回	8名	16名	14名	7.0名
10 機械工学教育FD/ICT活用研究委員会	11月、1月	2回	7名	14名	10名	5.0名
11 建築学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、12月	2回	7名	14名	11名	5.5名
12 経営工学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、1月	2回	9名	18名	14名	7.0名
13 栄養学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、3月	2回	7名	14名	10名	5.0名
14 被服学教育FD/ICT活用研究委員会	10月、2月	2回	6名	12名	9名	4.5名
15 医学教育FD/ICT活用研究委員会	2月	1回	8名	16名	5名	5.0名
16 歯学教育FD/ICT活用研究委員会	12月、1月	2回	9名	18名	12名	6.0名
17 葉学教育FD/ICT活用研究委員会	12月、2月	2回	8名	16名	15名	7.5名
小計		33回	123名	246名	183名	5.5名
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会	委員会開催月	開催数	委員数	(延人数)	(延人数)	(平均)
1 CCC政治学グループ運営委員会	12月、2月	2回	4名	8名	8名	4.0名
2 CCC社会学グループ運営委員会	12月、12月	2回	3名	6名	6名	3.0名
3 CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会	2月、3月	2回	3名	6名	5名	2.5名
4 CCC国際関係学グループ運営委員会	10月、11月	2回	3名	6名	6名	3.0名
5 CCC電気通信工学グループ運営委員会	12月、3月	2回	3名	6名	4名	2.0名
6 CCC土木工学グループ運営委員会	11月、1月	2回	3名	6名	6名	3.0名
7 CCC数学グループ運営委員会	12月、1月	2回	4名	8名	8名	4.0名
8 CCC生物学グループ運営委員会	12月、2月	2回	3名	6名	6名	3.0名
9 CCC看護学グループ運営委員会	2月	1回	3名	3名	3名	3.0名
10 CCC美術・デザイン学グループ運営委員会	10月、3月	2回	5名	10名	8名	4.0名
11 CCC統計学グループ運営委員会	2月	1回	4名	4名	4名	4.0名
12 CCC教育学グループ運営委員会	10月、12月	2回	3名	6名	6名	3.0名
13 CCC体育学グループ運営委員会	11月、1月	2回	4名	8名	7名	3.5名
小計		24回	45名	83名	77名	3.2名
合計		開催数	委員数	(延人数)	(延人数)	(平均)
		57回	168名	329名	260名	4.6名

各分野における委員会の活動状況

(1) 英語教育分野

委員会開催日：11月1日、12月21日（アンケート回答数：15件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「着実に実施していけば堅固な英語教育のインフラとなる提案だと思う」、「学生の基礎学力に応じた設定が必要ではないか」、「ラジオ等は時代遅れの感じでありネット上の幅広い情報を利活用すべき」等の意見があり、以下のような修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標2」の解説を「必要な情報を従来のメディアに加えてネット上の新たなメディアを通じて、迅速・正確に収集・理解し、有効活用できることを目指す。」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標2の到達度②」を「様々なメディアを通じてニュースや番組などを視聴・鑑賞し、その概要を伝達・意見交換できる。」に修正した。

「到達目標3の到達度②」を「専門分野におけるテーマについて英語で意見交換・発表することができる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(2) 国際関係学分野

委員会開催日：10月21日、11月18日（アンケート回答数：6件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「多角的によくバランスがとれていると思うが、現実にある必ずしも協調的でない場面をどう乗り越えるかという示唆があれば学生の指導に有用ではないか」、「国益論を扱う授業科目は国際基準から見て外交論や外交分析論だと思われる」などの意見があり、以下のような修正を行った。

【到達度の修正】

「到達目標2のコア・カリキュラムのイメージ」の「国益論」を「外交政策論」に修正した。「到達目標2の到達度③」を「多元的な価値に配慮し、理論や政策の比較などによる複合的な視点に立って考察、評価できる。」に修正した。

「国際関係学教員に期待される専門性の①」に倫理観を追加すべきとの意見があり、「人類の福祉を希求するための倫理観、使命感を有していること。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(3) 心理学分野

委員会開催日：9月26日、26年2月17日（アンケート回答数：9件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「心理学的知識と技能の限界を理解するという観点が欠けているのではないか」、「人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な手法を用いて明らかにできると言いかれるか」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標2」の「人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な手法を用いて明らかにできる」を「…探究できる」に修正した。関連して解説の表現も「…

得られたデータを適切な統計手法を用いて分析し、現象を統合的に理解・考察できることを目指す。」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標2の到達度④」の「適切な統計手法による分析を行い、結果の解釈ができる」を分離して「・・・分析を行うことができる」に修正した。その上で改めて到達度⑤として「分析結果に批判的な観点から検討を加え、結論を導き出し、新たな問題を発見することができる。」を追加した。

【測定方法の修正】

上記の修正に伴い、「到達目標2の測定方法⑤」の表現を見直し、修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(4) 政治学分野

委員会開催日：12月6日、26年2月19日（アンケート回答数：6件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

概ね妥当であり、賛同するとの意見が大半であったことから、修正する必要がないと判断した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(5) 社会学分野

委員会開催日：12月9日、26年2月10日（アンケート回答数：22件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「社会学的分析における基礎概念の重要性が認識されていない」、「到達目標、到達度については重要なポイントが網羅されていると思う」、「調査倫理の涵養を加えてはどうか」などの意見があり、学士力の考察と到達目標の説明、コア・カリキュラムのイメージを修正した。

【学士力考察の修正】

社会学の使命を連帶・協働して解決を図ることとしているが、問題解決を目的とすることに重点を置くのではなく、社会の隠れた構造的問題を明らかにすることが求められることから、「社会学は、社会の変動と構造を探求することから現代社会の構造的問題点を明らかにし、個人と社会さらには地球環境を含めた新たな相互関係づくりに貢献することを使命とする。」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標4」の解説を「・・・調査倫理に基づいた実証分析」ができるようにすることを目指す。」に修正した。

【コア・カリキュラムのイメージの修正】

「到達目標1」のコア・カリキュラムのイメージに「社会思想」を追加した。
また、「到達目標2」に「環境制約下の社会学」を追加した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(6) コミュニケーション関係学分野

委員会開催日：26年2月6日、3月6日（アンケート回答数：4件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「文化や社会的な背景の異なる人々と分野の違うフィールドで対話することで自らが持っていない知を同じステージで議論することで、問題を深めることをねらっているが、この点が理解されにくい」との意見があり、学士力の考察、到達目標、到達度の表現を修正した。

【学士力考察の修正】

学士力の考察を「…新時代」から「…グローバル化時代に対応したコミュニケーションの在り方を主体的に模索できることを目指した。」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標3」の「コミュニケーションの諸事象・諸問題を分析した結果を理論的に考察し、様々な状況で応用できる。」を「…様々な状況、異なる分野で応用できる。」に修正した。併せて解説を「…自ら設定した課題から得られたコミュニケーションの仕組みを実際のコミュニケーションに活用できるようにさせなければならぬ。そのために、分野に応じた課題を選択させる中でふさわしい研究の方法論を用いて調査・分析し、得られた仕組みを実践できることを目指す。」に修正した。

【到達度の修正】

上記の修正を受けて、「到達目標3の到達度②」を「諸事象・諸問題を考察し解決するために体系的にデータを収集・分析し、コミュニケーションの仕組みを提示できる。」に修正するとともに、「到達度③」を「異なる文化・社会的文脈などを背景としたコミュニケーションの関係性作りや行き違いを解消するために、コミュニケーションの仕組みを活用できる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(7) 法律学分野

委員会開催日：11月6日、12月20日（アンケート回答数：18件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「法学教育には、法学を専攻する学生への法学教育と法学以外の分野を専攻する学生への教養課程の法学教育があり、教養課程での学生数が圧倒的に多いので、教養課程における法学教育には全く参考にならない」、「到達目標は法科大学院レベルではないか」との意見があったが、法学を専門とする学士力としては到達水準の質や量の差異はあるとしても同一と判断した。しかし、法学を専門としない教育においては別途到達目標を構築する必要があることから、「学際的な教育のための法学教育の基礎」について今後研究を始めることにした。

② 次年度の活動計画

教養教育としての学際的な法学教育の到達目標の研究を進めるとともに、能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策についても検討する。

(8) 経済学分野

委員会開催日：10月4日、3月26日（アンケート回答数：18件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「経済学の範囲は地球上にとどまらないのではないか」、「5つの到達目標がどのように関連づけられているかを明確にする」、「経済現象の流れの意味が不明」、「ローカルな観点とリージョナルな観点が欠落しているのではないか」などの意見があ

り、以下のように修正した。

【学士力の考察の修正】

上記の意見を踏まえて、学士力の考察を3カ所に亘り修正した。一つは、「地球上の有限で希少な資源を…」から「地球上」を削除した。二つは「グローバルで学際的な観点のみならず、地域特性にも配慮して複眼的に諸問題を把握し、…」に修正した。また、到達目標の関連づけについては「相互の順序性、重み付けは各大学の教育理念に応じて構成されたい。」を加えた。

【到達目標の修正】

「到達目標1の解説」を「…経済全体の理論やその仕組みを理解…」から「…その発展、仕組みを理解…」に修正した。「到達目標2の解説」を「科学的に実証分析できるのは統計データだけではない」との意見を踏まえ、「…社会の発展と経済活動を歴史的な資料や統計データを用いて科学的に実証分析ができることを目指す。」に修正した。「到達目標3と4」の順を入れ替えた。

「到達目標5」の内容を明確にするため、「経済学の知識を統合して、倫理と公共性と責任感を持ち、学際的でグローバルな観点から判断し、自らの意見を表現できる。」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」を「基礎的な経済理論やその発展を理解し」に修正した。「到達目標2の到達度②」を「資料を用いて過去の経済現象の時代的推移を理解し、現実の経済情勢を考え表現できる。」に修正した。また、「到達目標5の到達度②」を「経済学やその関連分野の学修成果を総合的に活用し、経済問題を世界の観点から考え、表現することができる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(9) 経営学分野

委員会開催日：11月1日、26年1月10日（アンケート回答数：15件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「到達目標に人的資源管理の側面を入れるべき」、「組織の社会的責任については、企業と社会、社会における企業の役割等、存在意義や存在価値などの言葉で表現した方がよいのではないか」、などの意見があり、以下のように修正した。

【学士力の考察の修正】

「企業や組織体の存在意義に関する表現を一部改めるとともに、表現を全て「社会的責任」から「社会的役割と責任」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標1の解説」を上記の修正を受けて同様に修正し、コア・カリキュラムのイメージに「企業と社会」、「環境経営」を追加した。また、「到達目標3のコア・カリキュラムのイメージ」に「人的資源」を追加した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」を「経営倫理やCSRなどについて、企業不祥事の事例や危機管理事例などを具体的に理解し説明できる。」に修正し、新たに「到達度③」として「問題が発生した場合に自らどのような行動を選択するかを考えることができる。」を追加した。併せて「到達目標1の測定方法③」として「問題が発生した場合に自らどのような行動を選択するかを説明させることで確認する。」を追加した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブラーニングの効果的な取り組みの方策等について、

教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(10) 会計学分野

委員会開催日：10月3日、26年2月22日（アンケート回答数：13件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「会計以外の専攻を一般レベル、会計学専攻を専門レベルに分けて到達目標を設定したことを評価する」、「ビジネス社会における会計の重要性が増す中で学生の会計離れが進んでいる。到達目標、到達度は理想的となっているが、会計に興味を持たせる工夫が必要」などの意見があり、以下の部分を修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標2の解説」を明確化して「財務会計と管理会計の役割について認識させるとともに、財務会計と管理会計の情報が会計情報システムを介して一元管理されていることが説明できることを目指す。」に修正した。

「到達目標4の解説」に「・・・会計担当者として公正な立場で判断及び行動できることを目指す。」に修正した。併せてコア・カリキュラムのイメージの「公会計」を「公的組織の会計」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標2の到達度①<専門レベル>」を複式簿記の「原理」を「仕組み」に修正した。

「到達目標4の到達度④<専門レベル>」を「企業会計を踏まえて公的組織など、各種領域の会計の概要を説明できる。」に修正し、⑤を「会計基準が企業経営に与える影響について説明できる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(11) 社会福祉学分野

委員会開催日：10月7日、26年2月14日（アンケート回答数：8件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「ソーシャルワーカー視点のみでなくケアに携わる人たちの教育の視点も入れるべきである」、「社会福祉の歴史的視点を入れるべきである」、「資格試験に特化することなく、広く市民社会に貢献できる福祉教育を目指すべきである」などの意見があり見直しと修正を行った。

【学士力の考察の修正】

「歴史的変遷の中で到達した人権意識とエンパワメントの視点」、「社会福祉を学ぶということは、学問としての社会福祉学教育と社会福祉専門職養成教育の側面がある。そこで、社会福祉学教育における学士力の到達目標として、両側面を踏まえつつ、以下の五点を考察した。」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標1の解説」を「人間存在の原理と歴史的背景を踏まえながら分析し、克服のために果たす社会福祉」に修正し、「コア・カリキュラムのイメージ」に「社会福祉原論、社会福祉の歴史、社会福祉行財政論、社会福祉制度論」を追加した。「到達目標2」を「人権尊重及び社会正義の理念を確認し、社会福祉の目的・価値・倫理の概要を理解できる。」に修正し、「コア・カリキュラムのイメージ」に「社会福祉原論、社会正義、人権論、社会的排除、社会的包摂、社会福祉の歴史」を追加した。

「到達目標3」を「相談・支援の専門職としての基本的態度を身につけ実践でき

ること。」に修正し、併せて解説を「実際の援助場面において、とるべき基本的な態度を身につけなければならない。そのため、相談・支援の基盤となる信頼関係の形成に重要な面接技法や受容的・共感的態度を実際の関わり場面で実現できることを目指す。」に改めた。また、「コア・カリキュラムのイメージ」に「社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など」を追加した。

「到達目標4」を「ソーシャルワークの専門的な理論と技術を活用できる。」に修正し、「コア・カリキュラムのイメージ」に「社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など」を追加した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(12) 教育学分野

委員会開催日：10月12日、12月21日（アンケート回答数：8件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「理論的な知識も大切だが教育とは何か人を変えることの責任と意義を再確認した上で到達目標の設定が必要ではないか」、「基本的に問題なく納得できる」、「学生の主体的な学修を創造する目標を立てることが重要で固定的・形式的な到達目標を立てるべきではない」などの意見があったが、改善モデルの趣旨は統制するようなモデルではなく、各大学が参考にして教育目標を実情に応じて考えていただくための提言としていることから、特に修正する必要はないと判断した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(13) 統計学分野

委員会開催日：26年2月12日（アンケート回答数：3件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「データの特徴のみではなくデータの種類に応じた使い分けが必要」、「変数間の関係」を「変数間の相関関係または因果関係」とした方が明確になる、「平均、分散、標準偏差、期待値を明示的に盛り込むことが必要である」等の意見があり、以下のように修正した。

【学士力の考察の修正】

「問題を統計的モデルの枠組みの中で考え…」から「問題を統計モデルの枠組みの中で考え…」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標2」を「データを統計的に整理し、表やグラフを用いて説明できる。」に修正し、考察を「そのためには、データの特性に応じた統計表や統計グラフの表現方法を理解し、目的に応じて適切に活用できることを目指す。」に修正した。
「到達目標3のコア・カリキュラムのイメージ」に「期待値」を追加し、「到達目標5のコア・カリキュラムのイメージ」に「PDCAサイクル」を追加した。

【到達度の修正】

「到達目標2の到達度①」を「基本的な統計表やグラフの種類を知り、目的やデータの特性に応じた使い分けができる。」に、「到達度③」を「表・グラフ・基本統計の値を用いて、データの背後に潜む意味を踏まえて統計情報を説明できる。」に修正した。

(14) 数学教育

委員会開催日：12月24日、26年1月30日（アンケート回答数：6件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「学士力としてはレベルが低いのではないか」、「コア・カリキュラムのイメージに微分積分、線形代数、微分方程式を追加すべき」などの意見があり、求められる能力を念頭に置いた本モデルの背景が十分理解されていないことが判明した。このことを踏まえて、以下のように大幅な修正を行った。紙面の都合上、変更及び修正箇所を全て掲載していないので、詳細は、資料編【2-1】を参照されたい。

【学士力の考察の修正】

「社会人基礎として身に付ける一般レベル」から「専門教育の基礎レベル」、「専門教育の応用レベル」までの能力のイメージが理解されていないことを踏まえて、社会人基礎として身に付ける一般レベルは変更せずに、専門教育のレベルを「専門分野で数学を活用できるレベル」、「専門分野で数学を応用できるレベル」に表現を改めるとともに、到達目標1と2の内容を抜本的に見直した。

【到達目標の修正】

「到達目標1」を「社会生活に現れる数の基礎的な概念を理解し、身のまわりの問題解決に利用できる。」に修正し、併せて解説と到達度も全面的に変更した。また、「コア・カリキュラムのイメージ」の一部も修正した。

「到達目標2」を「図・数式などの基本技能を用いて自然・社会現象の表現方法を理解できる。」に全面的に変更し、併せて解説と到達度も設定し直した。また、「コア・カリキュラムのイメージ」についても大幅に修正した。

「到達目標3のコア・カリキュラムのイメージ」に「微分方程式」を追加し、到達度①を修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(15) 生物学分野

委員会開催日：12月19日、26年2月20日（アンケート回答数：16件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「生物学分野に必須であるフィールド調査・実験が欠けている」、「生態レベルは生態系レベルとすべき」、「生物学の対象範囲が狭い」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【学士力の考察の修正】

生物学教育の対象を明確にするため、「学士力の到達目標を教養から専門基礎レベル」としていることを明示した。

【到達目標の修正】

「到達目標1」を「生態レベルから生態系レベル」に修正した。

「到達目標2」を「生物の観察や実験・フィールドワーク…」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(16) 物理学分野

委員会開催日：11月2日、1月11日（アンケート回答数：6件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

概ね賛同するとの結果が得られたが、「典型的な物理現象を物理法則に基づいて説

明できるとした方が明確ではないか」、「一般レベルと専門レベルが分かりにくい」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【学士力の考察の修正】

一般レベルと専門レベルを分かりやすくするために、「科学リテラシー教育」から「科学的リテラシー教育」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度一般レベル①」の「典型的な物理現象について理解できる」を「典型的な物理現象の要因を理解できる」に修正し、「専門レベル①」を「典型的な物理現象を物理法則に基づいて説明できる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(17) 化学分野

委員会開催日：10月2日、26年1月15日（アンケート回答：8件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「一般レベルにおいても実験とレポートは必要」、「化学教育は物質の創成のみでなく環境や食の安全などにも関わっていることに配慮する」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【学士力の考察の修正】

「物質を創成し」を「物質を有効に活用する」に改めた。「社会人基礎力としての科学的リテラシー教育と、物質の本質を正しく理解し活用するための専門教育の側面から学生が身につけるべき達成目標を考察した。」に表現を改め、一般レベルと専門レベルを分かりやすくするために、「科学リテラシー教育」から「科学的リテラシー教育」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(18) 機械工学分野

委員会開催日：11月28日、26年1月20日（アンケート回答数：10件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「到達目標のレベルが高すぎる」、「到達目標1の到達度①」は学部教育ではレベルが高すぎる」などの意見があり、以下のように修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」に「基礎的な課題に対して」を追加修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(19) 建築工学分野

委員会開催日：10月28日、12月18日（アンケート回答数：11件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「到達目標2に生産（施工）を追加すべき」〔安全や機能に加えて芸術の視点を入れるべき〕等の意見があり、以下のように修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標2」を「建築の環境・計画・構造・生産に関する基本的な専門知識が理解できる」に修正した。

「到達目標3」の解説を「..まちづくり・地域・都市計画に関連づけて建築のマネジメントを考察できることを目指す。」に修正した。関連して「コア・カリキュラムのイメージ」に「ファシリティ・マネジメント」を追加した。また、「到達度①」を「地球環境や生活環境..」に修正した。

「到達目標4」を「建築学の体系的な知識や技能をもとに、環境・計画・構造・生産などの各分野・系と協働して建築作品にまとめることができる」に修正し、解説を「ここでは、複雑化する社会、多種多様な価値、変容する自然環境などに対応するため、分野・系を超えた連携に基づく協働設計の在り方を身につけさせねばならない」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」を「建築の機能性・安全性・芸術性に関する基本的な知識が活用できる」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(20) 土木工学分野

委員会開催日：11月18日、26年1月15日（アンケート回答数：8件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「専門基礎と実務との関わりを理解させることが必要」、「自然環境や社会に及ぼす影響・効果の視点を入れるべき」、「計画、設計、施工、維持・管理、更新」を総合的にマネジメントする観点が重要」、「技術者倫理は法令遵守より行動規範と考えるべき」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標3」をより明確にするため、「計画、設計、施工、維持・管理、更新を総合的にマネジメントする観点から各工程の仕組みを理解し、課題を抽出して検討することができる」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度①」に、「環境科学」を追加した。

「到達目標2の到達度④」を「技術者としての行動規範を持つことの重要性を理解できる」に修正した。

「到達目標3の到達度①」を「環境に配慮しつつ安全性、経済性、機能性を高めることをねらいとして、計画、設計、施工、維持・管理、更新の概念及び方法論を理解できる」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(21) 経営工学分野

委員会開催日：10月31日、26年1月16日（アンケート回答数：7件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「経営工学の範囲を企業、組織体、人など幅広く考えるべき」、「科学的アプローチは科学的・工学的アプローチにすべき」、「データ解析や統計分析の力を強化するべき」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【学士力の考察の修正】

「・企業や組織体の活動に関わるシステムの構築を通じて、経営上の新しい価値の創造に貢献することを使命としている」を表現が適切でないため、「・システムの構築を通じて、活動プロセスの改善や新しい価値の創造に貢献することを使命としている。」に修正した。また、「マネジメント技術を複合的に活用して問題に対応できる」を「マネジメントとエンジニアリングの融合による事業価値の創造に対応できる」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標2の解説」を「・科学的・工学的アプローチ」に修正し、「到達目標3」の「改善」を「改善(PDCAサイクル)」に活用できるに修正した。

「到達目標4」を「企業や組織体の活動に関わるシステムの構築を通じて経営上の新しい価値を創造するビジョンを描くことができる。」に修正し、関連して「解説」を「・社会や他組織と連携した・」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(22) 電気通信工学分野

委員会開催日：12月14日、26年3月24日（アンケート回答数：12件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「完璧な提案である」、「到達目標の重み付け、位置づけがあると分かりやすい」、「発想力（考える力）と運用力（動かす、保守）の力を入れるべき」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標2の解説」を「・汎用的技能を用いて設計から試作までの総合的な技術力の修得と他者の意見から再評価し、他者の意見から再評価し、改善ができる発想力・運用能力の修得を目指す」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(23) 栄養学分野

委員会開催日：10月21日、26年3月26日（アンケート回答数：9件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「健康的な食物は健全な食物にすべき」、「栄養学と関係性の深い他職種に対する理解、生活者の諸問題に配慮できる能力を入れるべき」、「消費者の視点を供給者と消費者の両方の視点からにすべき」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【学士力の考察の修正】

「学際領域との協働活動」を「学際領域や生活者視点を加えた協働活動」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標3の解説」を「健康的な食物」から「健康的な生活を営むために必要な食物」に修正し、また、「消費者の視点から」を「供給者と消費者の両方の視点から」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標2の到達度②」の表現を「栄養性、嗜好性に配慮して食物を選択し、献立を作成して調理する技能を活用できる。」に改めた。さらに「到達度⑤」に「教育機関」を追加した。

「到達目標3の到達度②」を「衛生管理対策に関する技術（HACCPシステムなど）を理解し実践できる。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(24) 被服学分野

委員会開催日：10月23日、26年2月24日（アンケート回答数：6件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

肯定的な意見や賛同するとの意見が多くたが、「被服衛生学を入れるべき」、「被服の着用などによるイメージ、ファッショニメジ表現、被服のイメージの文言を統一してはどうか」、「過去を学び現在の生活に適する衣服を考えさせることが必要」等の意見があり、以下のように修正を行った。

【到達目標の修正】

「到達目標1」を「..感性の表現ができる」から「..被服の着用などによるイメージを思考することができる。」に修正した。これに伴い「解説」の表現も改めた。

「到達目標2のコア・カリキュラムのイメージ」に「被服構成学」、「被服衛生学」を追加した。

「到達目標5」を「..生活の質の向上を考え、行動できる」から「..未来に向けたより質の高い衣生活を提案できる。」に修正した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」を「被服の着用イメージや感性の表現ができる基礎能力を身につけている。」に修正した。

「到達目標2の到達度①」を「被服構成の基礎を理解して、被服設計ができる。」に修正した。また、「到達度②」を「人体の構造と機能を理解して、被服形態との関連を説明し、機能評価ができる。」に修正した。

【測定方法の修正】

「到達目標2の測定方法①」を「筆記試験及び実技試験などにより確認する。」、「測定方法②」を「レポート、筆記試験などにより確認する。」に修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(25) 芸術学の美術・デザイン分野

委員会開催日：10月28日、26年3月6日（アンケート回答数：8件）

① アンケートのを踏まえた見直しの状況

賛同する意見が多く、修正の必要はなかった。但し、「デザイン・美術・芸術を同じ分野で扱うのはおかしい」との意見があり、芸術の様々な分野・領域について理解しているが、ここでは美術、デザインに共通する教育目標に視点をおいて考察した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(26) 体育学分野

委員会開催日：11月1日、26年1月17日（アンケート回答数：12件）

① アンケートを踏まえた見直しの状況

「スポーツの社会的機能を取り上げるべきではないか」、「身体運動の重要性を他者にわかりやすく伝えることができる追加すべきではないか」、「体育・スポーツ・健康づくりの指導者養成を取り上げるべきではないか」等の意見があり、指導者育成の観点も含めて見直しを行い、新たに「到達目標4」を作成した。

【学士力の考察の修正】

スポーツの社会的機能を明示するため、「国際社会においてはスポーツを通じて様々な問題解決に取り組む社会的機能への期待が高まっている。」に表現を改め、体育学の範囲を「..身体運動と健康の関係性及びスポーツの振興と普及、スポーツを通じた社会の発展に関する専門教育に焦点をあてた。」に修正した。

【到達目標の修正】

「到達目標2の解説」の「..セルフマネジメント力・コミュニケーション力」からコミュニケーション力を削除して「セルフマネジメント力」に修正した。「到達目標2コア・カリキュラムのイメージ」からスポーツとコミュニケーションを削除した。「到達目標3コア・カリキュラムのイメージ」に「スポーツバイオメカニクス」を追加した。

【到達度の修正】

「到達目標1の到達度②」を「..身体運動の効果を数値的に把握し、変化を自己評価できる」から「..データを数値的に把握し、それらの関係から身体運動の効果を多様な観点から評価できる。」に修正した。

「到達目標2の到達度①」から「到達度⑤」について全面的に見直し、「到達度⑤」を削除した上で、「到達度①」から「到達度④」の「運動」を「身体運動」に修正した。

【到達目標の新たな設定】

「到達目標4」として、「身体文化としてのスポーツが持つ社会的機能について理解し、多文化、多様性を尊重する社会の発展に貢献できる。」を設定した。

以下、「解説」、「コア・カリキュラムのイメージ」、「到達度」、「測定方法」については、紙面の都合上、全てを掲載していないので、資料編【2-1】を参照されたい。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(27) 医学分野

委員会開催日：26年2月13日 (アンケート回答数：13件)

① アンケートを踏まえた見直しの状況

モデル・コア・カリキュラムに沿って教育改善モデルを設定しているため、「教育改善モデル」の内容についてアンケートを実施した。「医学教育では基礎知識修得と様々なケースに対応できる問題解決能力が必要」、「反転授業の導入や知識の修得を確認するグループディスカッションなどを行う必要がある」等の意見があったものの、「教育改善モデル」を特に修正する意見はなかった。

② 次年度の活動計画

基礎知識の修得を確認するために、eラーニングによる反転授業を実際に試みることを計画し、そのための教材づくりや授業実験の在り方について研究することにした。

(28) 歯学分野

委員会開催日：12月24日、26年1月31日(アンケート回答数：21件)

① アンケートを踏まえた見直しの状況

モデル・コア・カリキュラムに沿って教育改善モデルを設定しているため、「教育改

善モデル」の内容についてアンケートを実施した。「予防的態度を寛容する根拠・EBMの視点が重要」、「ICTを活用したPBL型学習の環境整備が課題」、「他職種間の連携・協力ネットワークの構築」等の意見があったが、教育改善モデルを特に修正する意見はなかった。

② 次年度の活動計画

世界基準を目指した教育改革への問題認識を普及するため、関連の学会で口頭発表を行うとともに、歯学教育のPBL型授業を進展させるため世界に通用するアクティブ・ラーニングモデルの研究を行うこととした。

(29) 薬学分野

委員会開催日 12月26日、26年2月19日 (アンケート回答数：8件)

① アンケートを踏まえた見直しの状況

モデル・コア・カリキュラムに沿って教育改善モデルを設定しているため、「教育改善モデル」の内容についてアンケートを実施した。モデル実現に対して否定的な意見も見受けられたが、特にモデルを見直すべき意見はなかった。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

(30) 看護学分野

委員会開催日：26年2月8日 (アンケート回答数 6件)

① アンケートを踏まえた見直しの状況

モデル・コア・カリキュラムに沿って教育改善モデルを設定しているため、「教育改善モデル」の内容についてアンケートを実施した。「ICTを活用することはとても有用だが、カリキュラム上の時間の確保を議論する必要がある」、「学生が学ぶことは看護過程に集約されるので、看護過程を展開するためのコミュニケーション能力、看護倫理、推理・推論能力、調整能力が必要」などの意見が寄せられ、アンケートの意見をもとに見直しを行った結果、「教育改善モデル」にある図中の表現を修正した。

② 次年度の活動計画

ICTを活用したアクティブ・ラーニングの効果的な取り組みの方策等について、教員有志による対話集会を計画し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。

アンケートを踏まえた見直し結果の報告

平成26年3月にアンケートに協力いただいたサイバーFD研究員312名の教員の方々に分野ごとに見直しの修正結果を添付して報告を行った。なお、個別に回答を要する意見には、委員会として別途回答した。